

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年7月29日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700137
法人名	医療法人 椎原会
事業所名	高齢者グループホーム 椎原館
所在地	南九州市川辺町中山田1888番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	平成22年6月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成22年7月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大正時代からの診療所を一部改築し、グループホームとして利用している。
現在も週1回地域の方が診療に来られ、入居者の方との交流の機会となってい
る。
夏祭りへの地域の方の招待や地区の幼稚園、保育園の運動会の見学など、理念
の一つである「地域のお茶の間」となるよう、地域との交流にも積極的に取り
組んでいる。
母体病院との連携を図り、家族との連絡も密に行いながら入居者にとっての
「第二の我が家」として、入居者一人ひとりが安心して楽しく生活して頂ける
よう家庭的な雰囲気でのケアに心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

☆高齢者グループホーム椎原館は、昭和以前からご当地の中核的医療機関で
あつた椎原医院の入院施設を改装して開設されたもので、地域住民にとって
は馴染みの場所となっており、今でも診療所開院日には地域の住民が入居者に会
いに来て馴染みの交流関係が持たれている。
☆個々の入居者の1ヶ月の生活状況を介護記録から抽出し、具体的な報告がさ
れており、家族にとって利用者の生活・健康・交流の状況が手に取るよう
に分かりやすい。
☆排泄の自立を利用者の尊厳回復への支援ととらえて、取り組みを進めてい
る。
☆医療連携体制が確立されており、利用者の医療・保健への支援が密にされて
いる。
☆ホームの方針として「地域のお茶の間」「第二の我が家」との取り組みの中
で、地域との交流を重視している。
☆夏祭りを周辺に住んでいる高校生等のボランティアと一緒に、ホームで実施
している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者にとっての「第二の我が家」、地域の誰もが気軽に立ち寄れる「地域のお茶の間」としてのホーム作りを理念とし、常に目の留まるトイレに掲示することで、常に理念を認識しながら業務を実践できるよう取り組んでいる。	平成14年の開設当初から、グループホームの地域と密着した役割を踏まえた理念のもとに、職員全員がケアの基本として「第二の我が家」「地域のお茶の間」となるように取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小組合(自治会)に加入し地域の奉仕作業や行事への参加、幼稚園や保育園の行事への参加、ホームの行事への地域の方の招待、学生ボランティアの受け入れにより地域の方や幼児、学生との交流を図っている。	地元の勝目麓小組合に参加したり、地域の校区公民館で「グループホーム交流会」をする等の他に、ホームの夏祭りに、地域の高校生がボランティアとして参加している。また、隣接の保育園児との交流や、併設の診療所の受診者が馴染みの入居者を訪ねて来るなどの交流もある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームを知って頂くための地域への発信や、特性を生かした地域への貢献など行いたいという思いはあるが、実行には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況やホームでのサービス実施状況、自己評価や外部評価の結果報告などを行い、参加メンバーからの意見や質問などを受け、ホームの運営に生かしより良いホーム作りができるよう取り組んではいるが、参加者の日程調整がつかず、定期的な開催ができていない。	本年4月から奇数月に定期的に開催を予定している。ホームの運営状況や自己評価・外部評価の報告をしている。推進会議で出された意見を活かし、防火管理者の研修受講やスプリンクラーの設置など検討を進めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2～3ヶ月ごとに開催される地区的グループホーム交流会時、市町村の担当者が参加する際に情報交換や相談を行なっているが、運営推進委員会以外で市町村担当者がホームを訪れることはほとんどない。	運営推進会議開催の案内をしたり、参加されての情報交換を行い、また、利用者への生活支援相談などを頻繁にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の内容やその弊害について、ミーティングなどを通じて話し合いを行なっており、理解した上で身体拘束のないケアに取り組んでいる。玄関や居室に鍵を掛けことでの閉塞感や疎外感、利用者や家族、ホームを訪れる人に与える印象など理解し、鍵を掛けないケアを実践している。利用者が外に出て行きそうな時は、さりげなく声掛けをし付いて行くなどして対応している。	管理者研修の折に身体拘束禁止に関する委員会設置の効果を得ており、設置の準備を考えている。職員に身体拘束の研修をしている。玄関や居室は施錠をしていない。自由な暮らしを支援している。また、身体的拘束だけでなく、言葉や心理的拘束にも配慮したケアを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待に当たるのか、新聞などの事例を参考にミーティング時に検討を行い、ホーム内のケアについても省みるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	必要な利用者については市の福祉課や地域包括支援センターに相談、連携を図りながらの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には重要事項説明を利用者や家族に丁寧に行い、疑問等にも十分説明を行い同意を得ている。利用者の状態変化による契約解除(退居)となる場合は、本人と家族に納得頂けるよう十分話し合いを行なっている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の言葉や態度から不安や悩みなど察する努力をし、家族も訪問時の会話の中から要望や苦情など汲み取り、どんな小さなことでも遠慮なく言って頂けるような雰囲気作りに心掛けている。出された不安や要望などについては、職員で改善に向けて話し合い運営に反映させてい	思いや要望を自由に書きいれることができる「何でもノート」を置き、家族から意見や要望をもらえるようにしている。また、運営推進会議でも家族の要望を聞く工夫をしている。職員は利用者との会話や利用者のしぐさから希望を把握している。要望や意見は運営に反映している。		
11 7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は運営者に対し利用者や職員の状況、意見や要望など定期的に報告しており、それによって運営者は現場の状況を把握し要望実現に努めている。	入浴支援で困っている点や利用者が楽しい入浴ができるようにとか、食事のメニューを豊かにするためのアイディア等、現場の提案や要望を管理者は運営者に伝え、これらを実現するための機器の導入をするなど、職員の意見が運営に反映されている。		
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者からの報告や、ホーム訪問時の職員との会話により現場の状況を把握し、現場からの意見や要望を聞き実現するように努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所以外での研修や、地区グループホーム6ヶ所で行われている学習交流会には順番に参加し、全職員が受講できるようにしている。毎月のケアカンファレンスで研修報告を行い、全職員が内容を共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区的グループホームで開催する学習交流会に参加し、意見の交換など相互に支援し合い、サービスの質の向上に向け努力している。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時には、家族や担当ケアマネージャーに本人の状況や困っていることなどお聞きし、入居前には必ず本人にもお会いして、心身状況の把握や思いを傾聴し理解するよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談時、これまでの経緯や今困っていることなどゆっくり傾聴し、受け止める努力をしている。その上でホームでのサービスについての説明や必要な助言などを行い、信頼関係を築けるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時本人や家族の思い、生活や心身状況などを確認し改善のための支援、地域包括支援センターや他事業所でのサービス利用の紹介など行っている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として、日々の生活の中で教えて頂くことも多く、一人ひとりの得意なことや出来ることを見つけ、力を発揮できるようアイデアを出しあったり、気持ち良く引き受けてもらえるよう声掛けにも気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は日常の出来事の中での利用者の表情や喜び、悲しみなどを家族に伝え、一緒に喜びや悲しみなど思いを共感し、感動や励ましをして欲しいと願い家族と接している。			
20 8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅周辺までのドライブに出掛けた時や、隣接する医院の診察日に友人や知人の方が来られた時には本人に伝え、交流の場が持てるよう支援している。	ほとんどの利用者が地域周辺の人で、家族と自宅訪問をしたり、墓参り等の希望があれば職員とドライブをかねて出かけている。馴染みの人や場所に行き気軽に交流している。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	傍に寄り添い声掛けを行うなど、利用者同士の助け合いの場面に心を打たれるが、利用者同士の会話の中で不快な思いをされていることもあるので、職員からの感謝の言葉掛けや、不快な思いをしないためのフォローをしながら、利用者同士の支え合いの支援をしている。			
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所や病院に移られた方の面会に行ったり、街中などで家族とお会いしたら必ず声を掛け近況を聞いたりしている。家族から声を掛けて下さることもある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>利用者同士や家族との会話、日常生活での本人の会話や動作から希望や意向、思いを知ることが出来るよう努力している。</p>	<p>じっくり利用者に付き添い、会話やしぐさ等から思いや意向を把握している。困難な場合は家族等の意向も踏まえて、ささやかなことでも本人を中心とした支援になるようにしている。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居前の本人、家族との面談や、入居後も訪問時に家族から話を聞いたり本人との会話の中から、これまでの生活歴や暮らし方についての把握に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活リズムを理解し、また一つ一つの動作や言動を見逃さず、出来ることやわかる力を維持できるよう努めている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々の関わりの中で本人や家族の思いや要望を聞き、利用者主体の介護計画を作成している。また月1回のケアカンファレンスで出された意見や本人の心身状況の変化、家族、本人の要望に応じて介護計画の見直しを行っている。</p>	<p>毎月1回モニタリングを実施し、必要があれば介護計画を現状に即したものになるように見直しをしている。更新時には家族の意見や要望を反映するようしている。</p>	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉やエピソードを中心に記録しているが、時に漫然としていたり職員目線での記録となっており、介護計画に沿った記録となっていないこともある。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買物の支援や通院介助、外泊支援、墓参りなどの特別な外出支援、退居者や待機者への声掛けや安否確認など臨機応変に行っている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を發揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々にもホームの利用者にも地域の一員であることを理解して頂き、皆が安心して生き生きとした生活が続けられるよう、ホームの行事(七夕会)への招待や周辺施設(小組合、保育園、小学校など)への働き掛け、ボランティアへの協力の呼び掛けを行っている。		
30 11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居に伴いホームの協力医をかかりつけ医とする場合、本人と家族の同時を得ている。また一人ひとりの状態や希望に応じて他の医療機関も受診でき、定期受診や通院介助への対応も行っている。	かかりつけ医の受診を支援しているが、地域の状況からして、協力医療機関での受診となる場合もある。通院介助への対応もしている。専門科への受診については、家族の協力を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員がおり、中心となって日頃の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。また週1回の主治医往診時に日常の健康状態の報告を行い、必要に応じて主治医からの指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の心身や生活状況、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。入院後は職員も面会を行い、主治医や看護師、家族とも情報交換しながら、安心して治療を受け早期退院が出来るようにアプローチしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度や終末期の利用者に対してまず自分達はどう向こうか?何ができるか?などを話し合い、家族や医師、看護師と連携を図りながら支援している。	ホームとしての重度化や終末期への基本的考え方は家族等に一應は伝えてはいるが、文書化はしていない。状況に応じその都度話し合い、関係者と連携を取りながら支援している。	一定の方針を取りまとめて文書化するなど、職員や家族が見通しを持って対応できるようになることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	消防署の協力を得ながら、応急手当や蘇生術の実技訓練を行っているが、不定期の訓練となっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、利用者と職員が一緒に訓練を行っており、消防関係者や地域住民の協力を得て、災害時の協力体制も整えられている。台風などの災害が発生しやすい時期には、水や飲料、その他の物品の確認、職員の強化など災害対策をとっている。	前回の外部評価や運営推進会議での意見を受けて、災害対策の強化がなされている。年2回消防署の協力のもと昼・夜間想定の避難誘導訓練及び地域の協力体制確保、災害備蓄などの取り組みができている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者に対する言葉や態度（表情、声のトーン、スピード）が難になっていることに職員が気付いてなかった。関係者による指摘を受けてからは、利用者への言葉使いや職員間の会話に配慮するよう心掛けている。</p>	<p>自己評価やスタッフ会議、家族や外来者のさりげない指摘等を真摯に受け止め、ケアカンファレンスで研修を重ね、一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保は、ケアの基本事項として取り組んでいる。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶や食事、誕生会の時など本人が好きなメニューを選んで頂いたり、希望があった時には外出の支援をするなど、利用者の好みや関心事、希望など見極め、自分で決めたり選んだりする場面作りを積極的に行ってい</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事の時間以外は特に決まりはなく、一人ひとり好きなように過ごされ、居室で読書をしたり裁縫をしたりして過ごされている。それぞれの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちや体調に合わせた支援を行っている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>外出や行事の際には普段着から外出着に着替えてもらったり、月に1回の出張理容では、利用者の希望に添って行ってもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳や下膳後の茶碗洗い等、能力や希望に添って行ってもらっている。職員も同じ食事を同じテーブルで摂ることで、会話など行いながら楽しく食事が出来るよう心掛けている。	個々人の力量や希望に応じて、下ごしらえや配膳・茶碗洗いに利用者が参加している。献立についても希望を活かし、職員も食事介助をしながら、一緒に楽しく食事をしている姿は家族そのものである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個人別に毎回記録し、排泄状態や体重の増減と合わせ体調変化にも気を付けている。一人ひとりの状態に合わせてとろみや粥食、刻み食で対応し、食欲の無い時には好みの物や食べたい物を用意するなどして、摂取量が落ちないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な利用者の口腔ケアや義歯洗浄などは行っているが、自分で行っている方については本人任せとなってしまい、口腔状態やケア後の確認が行えていない。			
43 16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを理解し、尿意のない利用者についても時間を見計らってトイレ（ポータブルトイレ）に誘導し、トイレでの排泄を支援している。また排泄を失敗された場合にはさりげなく声掛けし、更衣などの介助を行うようにしている。	①排泄パターンの把握、②しぐさや雰囲気での排泄傾向の把握、③トイレ誘導を通して、便意や尿意が認められなかった人も、排泄の自立へ向けた前進が出てきている。排泄の自立はその人の尊厳回復への取り組みと受け止めている。		
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行い、一人ひとりの排便状態を把握しており、食事やおやつでも野菜や果物を多く使い、適度な水分摂取に努めるなどして自然排便が出来るよう取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の体調や一人ひとりの希望に合わせ、毎日入りたい方には入って頂くなど入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む方に対しては、時間をあけて誘うなど声掛けや対応を工夫し、気持ち良く入浴できるよう支援している。	個々の希望に応じて入浴支援をしている。浴湯は一人ひとり湯を入れ替えて、誰もが一番風呂を味わっている。入浴順番はその日の体調や希望により行き、入浴が楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	洗濯物たたみなどの家事を行なって頂くなど、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。夜間眠れない時は、温かい飲み物を用意しおしゃべりをするなど、安心して心地よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成しており、全ての職員が内容を把握し支援している。処方されて薬をただ漫然と服用して頂くのではなく、常に心身状況を把握し、主治医や看護師と連携しながら、薬の処方や用量の変更に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ちまき作りや切干大根作り、つわむきや金柑の下ごしらえなど、利用者の経験や知恵を発揮できる場面を多く作っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	買い物や墓参り、天気の良い日のドライブや散歩など、希望に応じて日常的な外出支援を行なっている。地域行事の参加やホームの行事にて外出する場合には家族にも連絡し、参加できる家族には参加して頂き、一緒に外出する機会を作っている。	天候を見計らいながら、散歩は日常的に行っている。買い物やドライブに週2~3回は出かけている。保育園の運動会や、グループホーム間の交流会など機会を作って外出の支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て少額のお金を所持している方もいる。事務所で管理している方も外出時には本人が持参し、自分で支払って頂くようになっている。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族などからの手紙が届いたら本人にお渡しし、読めなければ本人の同意を得て開封し読んで差し上げている。返事の希望があり、本人が書けない場合は代筆を行なっている。電話は子機を使用して頂くことで、自室で気兼ねなくゆっくり話すことができている。			
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの飾り物を季節ごとに変えたり、利用者の好きな芸能人のカレンダーを飾ることで、明るく家庭的で生活感や季節感のある空間作りを心掛けている。	朝は窓を開き、空気を入れ替え、湿度や温度も外気との差を考えながら管理している。ホール内は季節の飾り付けをし、草花を活け、季節を五感で感じられるように工夫し居心地よい空間となっている。		
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレや浴室前の廊下に椅子を用意し、休憩がてら腰掛けたり利用者同士の会話の場となり、話し声や歌声が聞かれている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや小物、家族との写真や便りを飾り、落ち着いて居心地良く過ごせるよう配慮している。	孫の結婚式の写真や夫の写真・タンス・小物など、家族との思い出の品物を置き、その人らしい安心感のある居室作りを工夫している。家で飼っていた猫を連れてきて飼っている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じてベッドやタンス、ポータブルトイレの位置を変えたり、老人カードや杖使用の声かけをし、転倒せず自立した生活が送れるよう支援している。また居室がわからない方にはのれんや廊下に目印を用意するなど、一人ひとりに合わせた環境作りを工夫している。		

V アウトカム項目

			1 ほぼ全ての利用者の
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

			1 ほぼ毎日のように
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	2 数日に 1 回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない